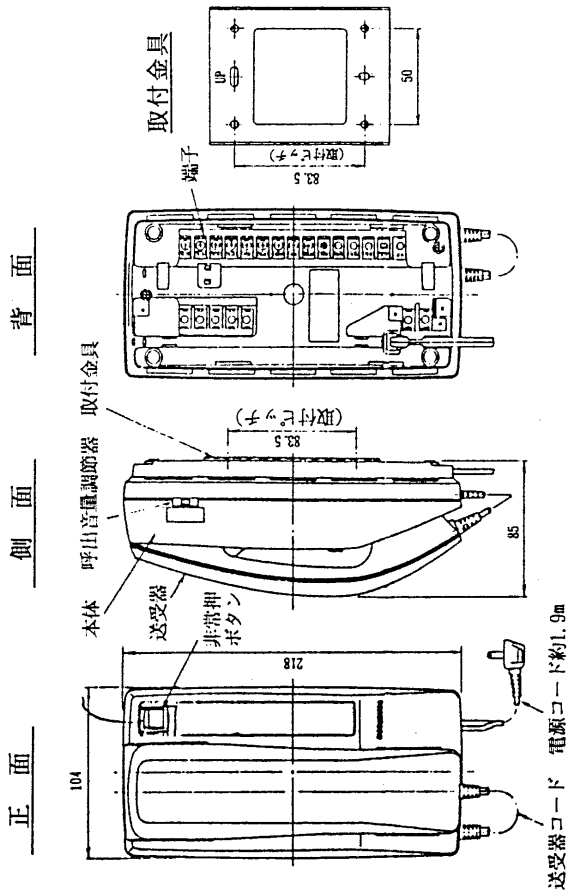


このたびは東芝インターホンをお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。お求めのインターホンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

各部のなまえと大きさ (単位: mm)

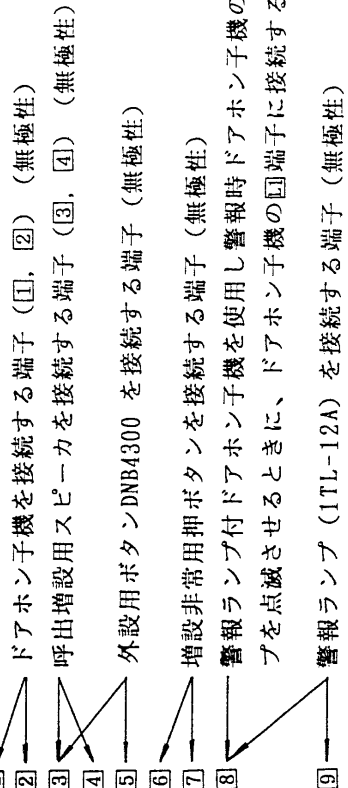


特にご注意を

- 本体はあけないでください。
- 親機の電源は必ずAC100Vのコンセントに接続してください。

組み合わせ接続例

■ 端子番号の説明



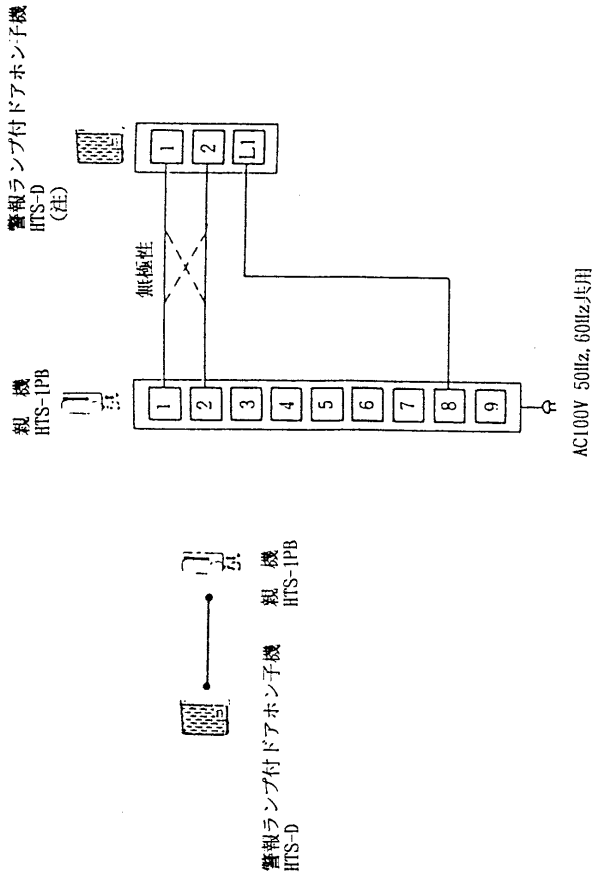
■ 組み合わせて使用できる機器

標準形	HTA-D, HJD1002, BT505A	1台のみ
標準形	HTS-D, HJD1001, HTS-DA, HJD1001A	1台のみ
標準形	ITL-12A (ITL-12は使用できません)	1台のみ
標準形	DS3532, DG1612	任意数
標準形	HJS1001	任意数
標準形	DBN4300	任意数
標準形	HTS-SB	最大2台 (並列接続)

■ 親機に警報ランプ付ドアホン子機を接続するとき

・ 通話網

・ 接続例

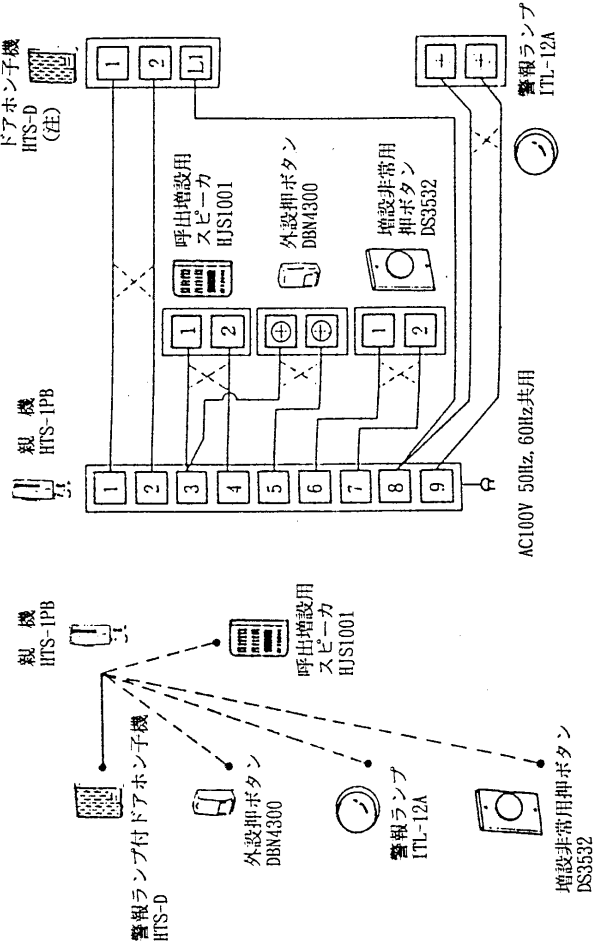


- 親機の①②端子に警報ランプ付ドアホン子機の①②端子を接続します。①②端子には極性がありませんので点線のようにな配線でもさしつかえありません。
- (注) ドアホン子機としてHJD-1001を接続する場合は接続端子はHTS-Dと同じです。

■ 親機に警報ランプ付ドアホン子機1台、外設押ボタン1台、増設非常用押ボタン1台、警報ランプ1台、呼出増設用スピーカ1台を接続するとき

・ 通話網

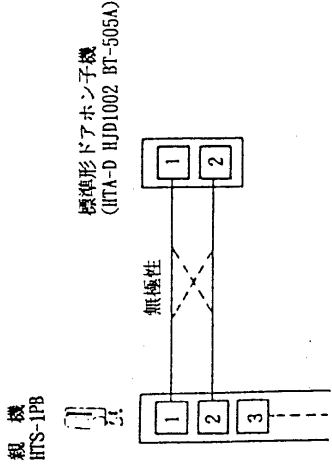
・ 接続例



- 警報ランプ付ドアホン子機は親機の①②端子に接続します。
- 呼出増設用スピーカは親機から離れた場所でも呼出し音を聞きたいときに親機の③④端子に接続します。
- 増設非常用押ボタン、外設押ボタン、警報ランプはそれぞれ親機の⑤⑥⑦⑧端子、③④端子、⑨端子に接続します。いずれも極性がありませんので点線のようにな配線でもさしつかえありません。
- (注) ドアホン子機としてHJD1001を接続する場合は接続端子はHTS-Dと同じです。

■ 標準形ドアホン子機を使用するとき

- 親機の①②端子にドアホン子機の①②端子を接続します。
- 親機の③端子からドアホン子機への接続は不要です。



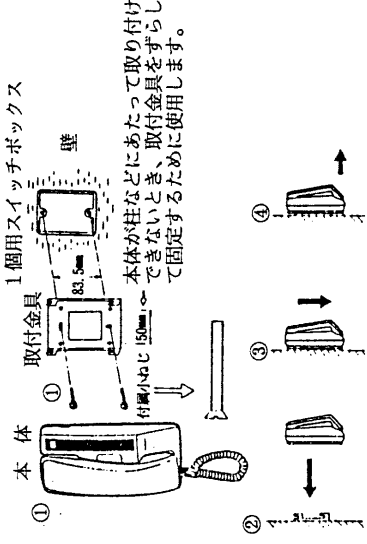
■ ご注意

- 呼出増設用スピーカおよび警報ランプは親機に並列に接続して使用することはできません。接続できる台数はそれぞれ1台までです。
- 警報時、警報音はドアホン子機から鳴り、呼出増設用スピーカからは鳴りません。警報音の増設用として呼出増設用スピーカを使用することはできませんのでご注意ください。

■ 取り付けかた

■ 1個用スイッチボックスに取り付けるとき

- ① 取付金具を付属のねじ(さら小ねじM4×30mm プラマイ) 2本ですでに取り付けられている1個用スイッチボックスの「UP↑」を上にして取付ます。
- ② 配線したのち、取付金具のつめに本体の底ぶたの引掛穴を合わせて本体を押し込み、
- ③ 下方へ引いてください。
- ④ 正しく取り付けられたか手前に引いて確かめてください。(はずれなければ取付完了です)。



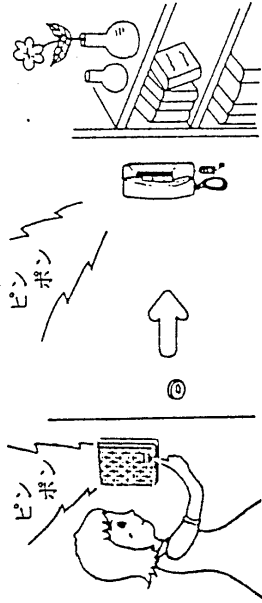
■ 柱や壁に取り付けるとき

- ① 取り付け金具を付属の木ねじ(丸さらねじ3.8×20mm プラマイ) 2本で柱や壁に取り付けます。(取付金具は「UP↑」を上にして取り付けてください。)
- ② 以後は上記の1個用スイッチボックスに取り付ける手順と同じです。

使いかた

■ ドアホン子機からの呼出し

- ドアホン子機のボタンを押すと親機で呼出し音（ピンポン）が鳴ります。（このとき子機側にも呼出し音が小さく聞こえ、呼び出していることが確認できます。）



■ ドアホン子機から呼ばれたら

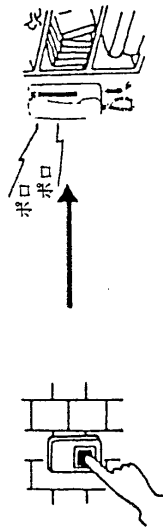
- 呼出し音がピンポンと鳴りましたら送受器をとり上げてそのままお話しください。

■ 親機からドアホン子機を呼び出すとき

- 親機の送受器をとり上げ、直接音声で相手を呼び出してください。

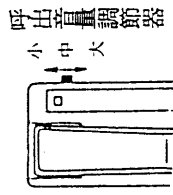
■ 外設押ボタンから親機の呼出し

- 別売の押ボタン（DBN4300）をご使用になりますと、親機を軽快なトレモロ音（ポロポロ…）で呼び出します。（通話はできません。）



■ 呼出し音量の調節は

- 本体右側面の呼出音量調節器のつまみを動かし、適当な音量に調整してください。このとき呼出増設用スピーカ（HJS1001）が接続されているればこの呼出音量も同時に調節されます。



■ 通話が終わったら

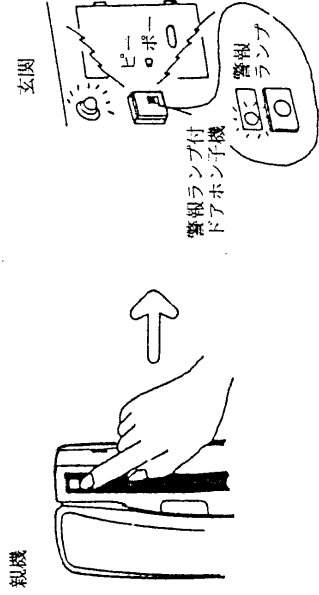
- 送受器を正しく掛けてください。送受器を正しく掛けませんとスイッチが働かず、呼ばれても呼出音が鳴りません。

非常時での使いかた

……警報音の鳴らしかた……

■ 親機をつかいかた

- 親機の非常押ボタンをカバーごと押しこむと、ドアホン子機から警報音（ビーポー）が鳴り続けます。非常押ボタンをもう一度押し復旧させれば警報音は停止します。送受器は掛けたままでも、はずした状態でも警報音は鳴ります。

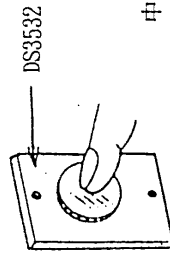


- ドアホン子機として警報ランプ付ドアホン子機（HTS-D、HJD1001）をご使用の場合はドアホン子機の警報ランプが点滅します。また警報ランプ（ITL-12A）を接続している場合は警報ランプも同時に点滅します。

- 警報音が停止しますとこれらのランプは消滅します。

■ 増設非常用押ボタンのつかいかた

- 増設非常用押ボタン（DS3532、DG1612）を接続してある場合は、この押ボタンを押すことにより、親機以外の場所から警報音の起動ができます。押ボタンをもとの位置に復旧しますと警報音は停止します。



中央の保護カバーを破って
押ボタンを押しこみます。

ご注意とお願い

このインターホンは屋内専用で -10℃～+50℃の温度範囲で使用するように設計されています。つぎの場所には取り付けないでください。

- ストープなどの暖房器具の真上やその付近。
- 直射日光のあたるところ。
- 製氷食庫など -10℃以下になる場所。
- 浴室など特に湿度の高い場所。
- 有害ガスやいろいろなほこりの特に多い場所。
- 水や薬品がかかるおそれのある場所。

お手入れのしかた

- 本体や送受器はやわらかな布でふき拭いてください。
- 汚れがひどいときは石けん水を湿した布をよくしぼってからふいてください。
- 機器をいためますので、ガソリン・ベンジン・シンナーなどの薬品でふかないでください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ親機の電源プラグをコンセントから抜いて、お買いあげの販売店（工事店）またはお近くの東芝消費者相談センター、東芝サービスステーションにご相談ください。なお、ご相談されるときは形名（HTS-IPB）およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

仕様

- 通話方式 電話形同時通話方式
- 電源 AC100V 50Hz, 60Hz共用
- 定格消費電力 1W（待受時）、7W（最大時）
- 呼出信号 ドアホン子機から：電子チャイム音 呼出音量調節器付
外設押ボタンから：電子トレモロ音（3段切替式）
- 警報信号 電子サイレン音（ビーポー）
- 警報音 量 ドアホン子機前面50cmで90ホン以上
- 配線本数 親機-ドアホン子機間：3線（有極性：警報ランプ付の場合）
2線（無極性：標準形の場合）

● 通話距離

線種	公称断面積		0.3mm ²		0.5mm ²		0.75mm ²		1.25mm ²		2mm ²	
	(本/mm)	より線	12/0.18	20/0.18	30/0.18	50/0.18	50/0.18	37/0.26	1.0	1.2	1.6	1.6
①：親機-ドアホン子機間		単芯線	150以下	250以下	300以下	600以下	600以下	1000以下				
②：親機-増設非常用押ボタン間			150以下	250以下	300以下	600以下	600以下	1000以下				
③：親機-警報ランプ間			150以下	250以下	300以下	600以下	600以下	1000以下				
④：親機-外設用押ボタン間			150以下	250以下	300以下	600以下	600以下	1000以下				
⑤：親機-呼出増設用スピーカ間			150以下	250以下	300以下	600以下	600以下	1000以下				

- 親機-呼出増設用スピーカ間：2線（無極性）
- 親機-増設非常用押ボタン間：2線（無極性）
- 親機-外設用押ボタン間：2線（無極性）
- 親機-警報ランプ間：2線（無極性）

- 設置場所 屋内専用 使用周囲温度 -10℃～+50℃
- 外観材質 プラスチック（ABS樹脂）
- 色 本体：オフホワイト